

平成 29 年 8 月 18 日（金）に第 1 回地域就労支援連絡会議を開催いたしました。送り出し側の支援として医療機関、就労系障がい福祉サービス事業所、労働行政、ナカポツからと、受け手側の支援として障がい者雇用を進めている企業 4 社の方々に登壇いただきました。



1 部は「障がいのある方が就職するためのプロセス～送り出し側の支援として」というテーマで、おおえメンタルクリニックゆう デイケア係長 酒井氏、障がい福祉サービス事業所ちあファクトリー 所長 小関氏、ハローワーク帯広 専門援助部門 精神障害者トータルサポーター 松岡氏、当センターの主任職場定着支援担当者の田中より話題提供をいたしました。

送り出し側の支援としては、利用や相談をしている方が次のステージに行く場合、しっかりとバトンを受け渡していけるのかが課題となっているという話があがりました。バトンを渡したままではなく、渡したあとに事業所間で情報提供・共有をすることもできる関係性をつくっていくことやご本人の就労支援をする場合には関係者に本人のマッチングイメージを持ってもらうことが必要という内容となりました。

2 部は「ゼロからはじめた！障がい者雇用～受け入れ側としての支援・思い～」として、社会福祉法人音更町柏寿協会 事務局局長 安達氏、パナソニックエクスセルプロダクツ株式会社 第一支社 帯広事業所 統括リーダー 真鍋氏、株式会社明治 十勝工場 業務課課長 石塚氏、十勝毎日新聞社 総務局 人事部 副部長 井上氏に登壇いただきました。

発表の中では、障がい種別で雇用を考えているのではなく、その人の特性を理解し、その人に合った仕事内容や方法を考えていると話されていました。

受け入れ担当者だけではなく他の従業員も障がいのある方についてできる限り理解するように努めることやコミュニケーションが苦手なため、日々の様子から変化を見落とさないようにすることが必要という内容となりました。



今回は、企業・福祉事業所・医療機関・教育機関等、約 100 名の方に参加いただきました。送り出す側はどのような視点でご本人と関わっているのかを、また受け入れ側は障がい種別に関わらずその人個人を見て、職務を考えているという内容を、会場のみならず共有することができました。

終了後、次回の研修に参考になるような感想などもいただきましたので、皆様に就労支援のタイムリーな話題提供ができるように努めてまいります。